

「Z世代によるタイパ重視Z世代に向けた旅のすすめ ～短期間旅の学びと意識変化の検証～」



<メンバー>

- ・ 大学院生：小田島真徒
- ・ 学部生：趙子昊、井上慶太郎、新村一翔、喜屋武龍太、堂下晃大、白水顕
- ・ 指導教員：巴特尔、大竹英理子、今村康子

発表内容

1. 研究背景と問題意識
2. 研究目的・方法論
3. 進捗報告
 - (1) 文献調査：Z世代の特徴と傾向
 - ①Z世代の価値観
 - ②Z世代の旅の現状
 - (2) 文献調査：ジェネリックスキル定義
 - (3) 文献調査：旅と学び
 - (4) 千歳フィールドワークに向けて
 - ・事前調査1 調査内容一覧
 - ・事前調査2 北海道・千歳の産業
 - ・フィールドワーク行程表
 - (5) アンケートの設計
 - ・Z世代の旅 実態調査
 - ・フィールドワーク効果検証
4. 今後の計画
5. 参考文献

1. 研究背景・問題意識

研究背景

20世紀システムから21世紀の未来圏を構想する時代に入り、アジアダイナミクスをはじめ世界の全体知や対人における身体知の重要性が高まっている。

17世紀初頭からイギリス貴族が子弟の教育のために始めたグランドツアーや、「かわいい子には旅をさせよ」との諺がある。また現代の情報化社会では、問題を特定し解決する力、自ら考え行動する力、様々な人とコミュニケーションをとる力等のジェネリックスキルが必要であり、旅に出ることでジェネリックスキルが向上することをいくつかの研究が示している。

問題意識

近年、新卒者にはジェネリックスキルが不足しているとの指摘がある。また、日本のZ世代は、旅をあまりしない。情報収集ツールはSNS、自分と同じ属性の人同士の交流を好む傾向があり、「今、ここ、わたし」の範囲に止まる。タイパを重視し、判断をスマホに委ねる（思考の外部化する）傾向に、Z世代の当事者として危機感を覚えている。Z世代であるゼミ生自らが、タイパ重視のZ世代を旅に誘引しジェネリックスキルを高める機会の創出に寄与したいと考えている。

2. 研究目的・方法論

研究目的

Z世代当事者の問題意識のもと、短期間の旅とその旅の経験による「ジェネリックスキルへの寄与」と「将来に向けた意識の変化」を明示し、Z世代を旅に誘引する一助にする



**Z世代の学生が、2泊3日程度の短期間の非日常のなかに身を置く旅を体験し、
タイプ良く能力を向上する手段として、Z世代に対しZ世代から旅の効用を提示する**

研究方法

文献調査、アンケート調査、専門家インタビュー、フィールドワーク・実地調査、
関係者ヒアリング

具体的進め方としては、

- ①Z世代の特徴と傾向、旅と学びに関する現状把握
- ②旅と学びに関する意識調査
- ③2泊3日千歳旅に出る、千歳実地調査
- ④効果調査、分析、考察

3. 進捗報告

(1) 文献調査：Z世代の特徴と傾向① 価値観

● Z世代の定義 (野村総合研究所 HP「用語解説」、2024年8月23日閲覧)

1990年代半ばから2010年代序盤に生まれた代

● Z世代の価値観

(2022年度サービスエンターテイメント班 「『Z世代』からみたZ世代研究」、2022年)

背景と特徴

- ・ デジタルネイティブ: 幼少期からスマートフォンに触れる
- ・ デジタルコミュニティ形成: オンラインでの繋がりが自然
- ・ タイムパフォーマンス重視: 短時間で成果を上げることを重視

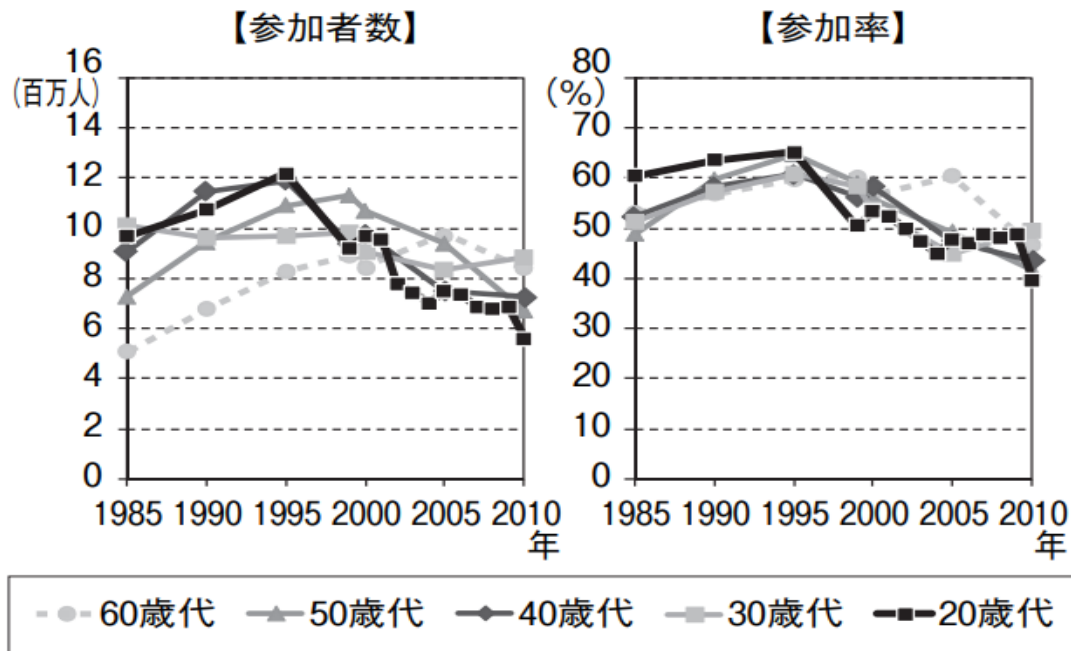
(例)

- アニメ、ドラマ、映画の視聴を1.5倍速や2倍速で
- スマートフォンのピクチャインピクチャ機能で「ながら見」

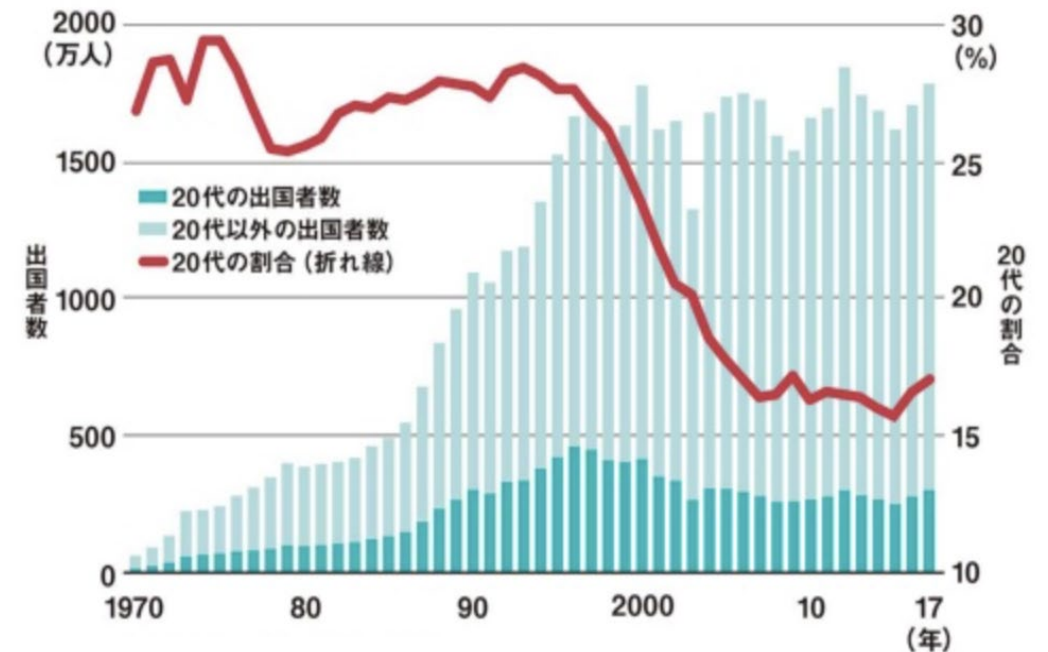
(1) 文献調査：Z世代の特徴と傾向② 旅の現状

■ 20代若者の国内・海外旅行離れの傾向が顕著

【年齢階層別参加者数および参加率】(国内旅行)



【日本人出国者数と20代の割合】

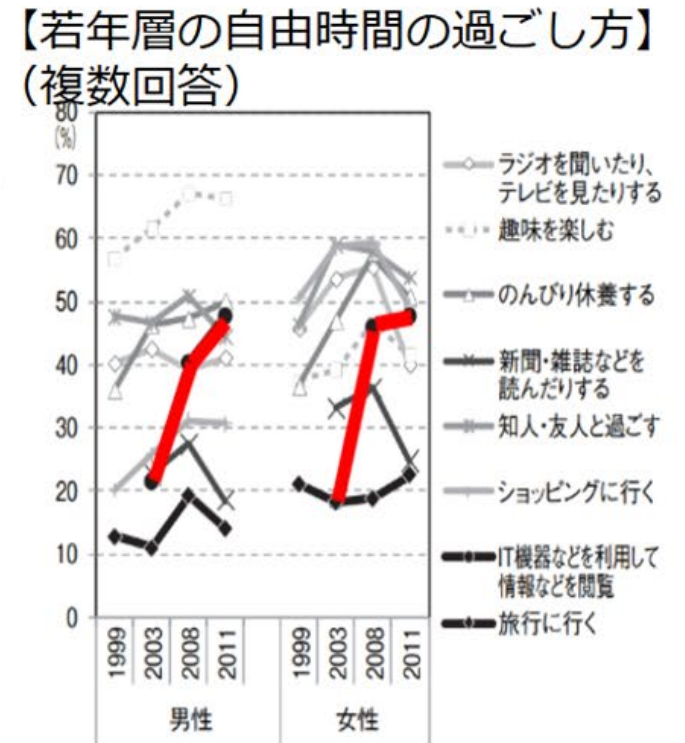
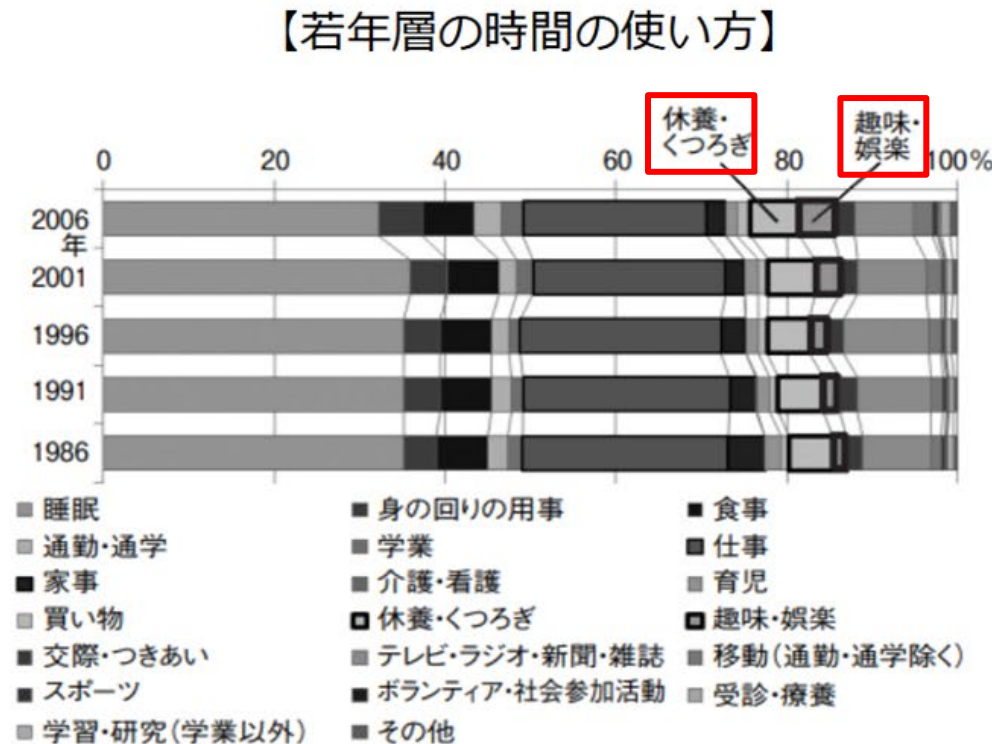
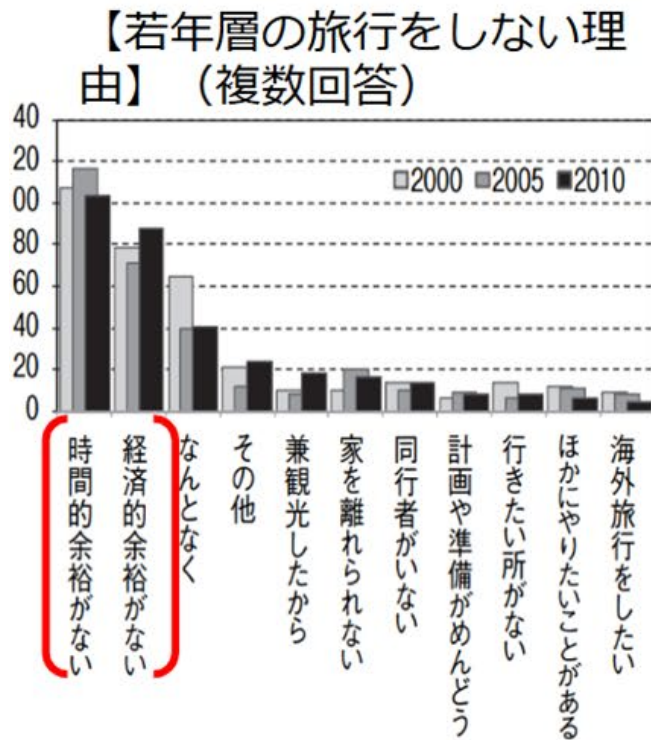


出所：日比野直彦・佐藤真理子「若者と旅－若年層の国内観光行動の時系列分析」－（国際交通安全学会誌, Vol37, No.2 2012年9月）

出所：法務省「出入国管理統計統計表」

(1) 文献調査：Z世代の特徴と傾向② 旅の現状

- 時間的余裕がない、経済的余裕がないとの理由
- IT機器での情報閲覧の時間が上昇傾向も一因



出所：日比野直彦・佐藤真理子「若者と旅－若年層の国内観光行動の時系列分析」－（国際交通安全学会誌, Vol37, No.2 2012年9月）

(2) 文献調査：ジェネリックスキル定義

多くのスキルが存在するが
「旅」における効果は次の通りの
スキルが期待できる

対人

自己管理

適応

内省

1. 対人スキル

- コミュニケーションスキル: 異文化間での効果的なコミュニケーション。
- 協調性: チームワークや他者との協力。
- 交渉力: 利害関係者との交渉や調整。

2. 自己管理スキル

- 時間管理: スケジュール管理や計画立案。
- リソース管理: 予算や持ち物の管理。
- ストレス管理: 旅行中のストレスやプレッシャーへの対処。

3. 適応スキル

- 柔軟性: 異なる文化や環境への適応。
- 問題解決能力: 予期せぬ問題やトラブルへの対処。
- 創造力: 新しい状況や課題に対する創造的な解決策の発見。

4. 内省スキル

- 自己理解: 自己成長を促す内省。
- 批判的思考: 自分の行動や決定の評価と改善。
- 学習意欲: 新しい知識やスキルを学ぶ意欲。

(3) 文献調査：旅と学び

旅をすることによって、人間としての**成熟速度**が高くなる

旅に行き、不便さをはじめとする「生きるため」の言語力や文化の受け入れ、妥協と共感を繰り返すことで**忍耐力**を身に付けられる。

(出所：ペール・アンデンション著『旅の効用』、2020年)

安定＝制限 同じ場所で暮らし続けることは、安定こそするが、自分自身の変化に適応するという能力に対して蓋をし制限してしまっている

(出所：長倉顕太著『移動力』、2019年)

- 短い旅の中でも、旅や人生で過ごす時間の「**濃さ**」高まれば能力の増加や価値の創出ができるのではないか
- 慣れた場所、環境から自分の意志で離れる旅が不便を感じることもあるが、その不便が**成長や忍耐力**につながるのではないか

(4) フィールドワーク@千歳市 事前調査概要 (一覧)

北海道の歴史

北海道社会要素

- ・人口推移、年代分布、地政学的特徴 等

日本全体の農業と食

産業

- ・北海道・千歳の農業
- ・千歳市の企業誘致（ハイテク産業中心）
- ・千歳市の工業団地（ラビダス）
- ・観光と課題（ニセコオーバーツーリズム）

異文化共生

- ・アイヌ・インバウンド

北海道の物流

- ・新幹線開業に伴う鉄道路確保の課題認識

自然・環境

(4) フィールドワーク@千歳市 事前調査：産業

【農業】

- 北海道では、農家の人口減少が深刻化
→スマート農業、外国人人材制度整備、
農福連携を推進
- 千歳市は、農業基盤整備をもとに大規模経営
の近代化を推進
- 農家戸数は減少傾向で人手不足の問題を注視

【観光】支笏湖

- 新千歳空港から西に車で1時間程離れた場所
に位置する日本最北の不凍湖であり、
「支笏洞爺国立公園」の一部
- 周囲は約40kmで最大深度360mは国内2位
- プランクトンの発生が極めて少なく、透明度
が高く「支笏ブルー」と呼ばれる程透き通っ
た湖が広がる

【Rapidus株式会社】

次世代半導体製造企業。

- 北海道千歳市に次世代半導体工場を建設。
(2ナノメートル級の半導体を製造する能力を
持つことが計画されている。)
- 日本の半導体産業再興や経済安全保障に重
要な役割を果たすと期待されている。

【企業誘致】

千歳市は産業インフラ(陸海空が備わった交通
アクセス、良質で豊富な水資源、若く専門的な
労働力、手厚い助成制度)が整った北海道屈指
の工業団地。自然災害に強いことからリスク分
散を求める企業にとって魅力的な立地環境。

（４）フィールドワーク@千歳市 行程表

日程	時間	内容	場所
9月24日	8:00	羽田空港発(ANA53便)	羽田空港
(火)	9:30	新千歳空港着	新千歳空港
	10:00	オリエンテーション(千歳観光連盟)	CTS千歳観光ステーション
		キャンプ食材の買い出し	千歳市内
	13:00	支笏湖ちとせ美笛キャンプ場着	支笏湖キャンプ美笛キャンプ場
	13:30	ネイチャークルーズ（カヌー体験）：ガイドと交流しながら支笏湖自然を体験	
		キャンプ体験：自力でテント設営、ジャンプ飯を料理	
		テント泊	
9月25日	9:45	テント撤収・美笛キャンプ場出発	支笏湖ちとせ美笛キャンプ場
(水)	11:00	ラピダス関連（千歳市次世代半導体拠点推進室）ヒアリング	千歳市役所
	午後	農業体験	吉田農場
		ホテル泊	自己手配
9月26日	9:00	キッコーマン工場見学	北海道キッコーマン
(木)	12:00	フリー（単独行動）	各自計画・手配
	19:30	新千歳空港発(ANA78便)	新千歳空港
	21:05	羽田空港着	羽田空港

(5) アンケートの設計 (概要説明)

実施する定量調査の概要と目的は下記の通り

① Z世代の旅の実態調査

目的：既存研究で明らかになっていないZ世代の旅の実態を把握する

対象：多摩大大学生

方法：GoogleFormアンケート

期間：10月

② フィールドワーク効果検証

目的：フィールドワーク実施後のジェネリックスキルおよび意識の変化を検証する

対象：フィールドワーク参加者

方法：GoogleFormアンケート

期間：10月（フィールドワーク終了後1週間程度を予定）

* ②で得られた結果がZ世代の旅への意識変化に寄与するかを検証するため、定量または定性調査を実施予定

* 既存研究で使用されたジェネリックスキルの評価指標での実施後の効果検証、IDGs（内面成長フレームワーク）を用いた実施前後の調査の実施も検討する

(5) アンケートの設計 フィールドワーク効果検証

ジェネリックスキル ⁴⁾			1 変わらない 2 やや改善した 3 改善した 4 とても改善した ⁴⁾ L 評価の根拠となる行動事実／相関があると考えられる旅の内容 ⁴⁾
対人スキル ⁴⁾	コミュニケーション ⁴⁾	異文化間での効果的なコミュニケーション ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	協調性 ⁴⁾	チームワークと他者との協力 ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	交渉力 ⁴⁾	利害関係者との交渉や調整 ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
自己管理 ⁴⁾ スキル ⁴⁾	時間管理 ⁴⁾	スケジュール管理、計画立案 ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	リソース管理 ⁴⁾	予算や持ち物の管理 ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	ストレス管理 ⁴⁾	旅行中のストレスやプレッシャーへの対処 ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
適応スキル ⁴⁾	柔軟性 ⁴⁾	異なる文化や環境への適応 ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	問題解決能力 ⁴⁾	予期せぬ問題やトラブルへの対応 ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	創造力 ⁴⁾	新しい状況や課題に対する創造的な解決策の発見 ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
内省スキル ⁴⁾	自己理解 ⁴⁾	自己成長を促す内省 ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	批判的思考 ⁴⁾	自分の行動や決定の評価と改善 ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	学習意欲 ⁴⁾	新しい知識やスキルを学ぶ意欲 ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾

旅のプログラム内容と意識変化 ⁴⁾		1 そう思わない 2 ややそう思う 3 そう思う 4 とてもそう思う ⁴⁾ L 理由（フリー記入） ⁴⁾
地域 ⁴⁾	滞在した地域に関する知識理解が深まった ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	滞在した地域への興味関心を持つようになった ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	滞在した地域への定住意欲がわいた ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
自然 ⁴⁾	作物を収穫する喜びや充実感を味わった ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	食べ物を大切にすることが育った ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	自然や生き物を大切にする気持ちが育った ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	食べ物や作物への興味関心をもつようになった ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	食べ物に関する知識理解が深まった ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
文化 ⁴⁾	自然や生き物に対する観察力が身に着いた ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	滞在した地域の文化に関する知識理解が深まった ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
農業 ⁴⁾	滞在した地域の文化に興味関心を持つようになった ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	農業に関する知識理解が深まった ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	農業への興味関心を持つようになった ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
産業 ⁴⁾	自分の将来（職業）について真剣に考えるようになった ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
	（産業）に関する知識理解が深まった ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾
産業 ⁴⁾	（産業）への興味関心を持つようになった ⁴⁾	〇1 〇2 〇3 〇4 ⁴⁾

今後の研究計画

- フィールドワーク：9/24～26 千歳市2泊3日の旅を実施
- フィールドワーク効果検証：ジェネリックスキル、意識の変化のアンケート
- 専門家ヒアリング：講義、旅の経験とジェネリックスキル向上の相関WS
- アンケート：（既存研究で明らかになっていない）Z世代の旅の実態
- 文献調査、アンケート、ワークショップ結果の分析を行い論文としてまとめる
- 『旅の学びの協議会』 5期プロジェクト補助金 研究部門に応募し、
補助金対象研究に選出 → 3月協議会サミットで学生が研究成果を発表

参考文献（ウェブサイトを含む）

1. 津田佳明「旅と学びを検証する」、Career Guidance Vol.450 2024 APR P19－23
<https://shingakunet.com/ebook/cg/450/#page=21>
2. ペール・アンデション著 畔上司訳『旅の効用：人はなぜ移動するのか』、草思社、2020年
3. 長倉顕太『移動力』、すばる舎、2019年
4. 金 春姫・鎌田裕美「若者の旅行に対する意識」、成城・経済研究 第188号（2010年3月）
<https://www.seijo.ac.jp/pdf/faeco/kenkyu/188/188-kin-kamata.pdf> 閲覧日：2024/06/01
5. 日比野直彦・佐藤真理子「若者と旅－若年層の国内観光行動の時系列分析－」、国際交通安全学会誌 VOL.37、No. 2、2012年9月、<https://www.iatss.or.jp/common/pdf/publication/iatss-review/37-2-07.pdf>
閲覧日：2024/05/10
6. 「若者が旅行しないのはなぜ？旅行離れにつながる若者の意識や志向をまとめてご紹介」、ホテル宿泊業界情報コラム おもてなしHR、2021年7月7日 https://column.omotenashi.work/column/bits_of_knowledge/24393 閲覧日：2024/5/20
7. 2.消費者庁 「【特集】変わる若者のyそうひと持続可能な社会に向けた取組～18 歳から大人の新しい時代へ～」『令和4年消費者白書』（第1部第2章）、2022年
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/white_paper/assets/2022_whitepaper_0003.pdf 閲覧日：2024/6/1
8. 北海道千歳市公式ホームページ-City of Chitose 『第2章 農業を取り巻く環境変化・動きと千歳市農業の特徴と課題』 https://www.city.chitose.lg.jp/fs/2/4/0/6/2/9/_/2_.pdf
9. 鮫島卓「グループ旅行における人的交流がジェネリックスキルに与える影響」2022年
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jitrproceedings/37/0/37_181/article/-char/ja/
10. 和田朋子「大学教育に求められる「ジェネリックスキル」の教育」（2023年4月14日）
<https://library-kogakuin.repo.nii.ac.jp/records/374>

ご清聴、ありがとうございました。

APPENDIX

(5) アンケートの設計 Z世代の旅の実態調査

- 頻度や予定に関する調査
- 長期休暇の意識に関する調査
- いつ行きたいと感じるかの調査
- 目的や手段、同行者に関しての質問
- 旅に対しての考え方

(5) アンケートの設計 フィールドワーク効果検証

目的：フィールドワーク実施後のジェネリックスキルおよび意識の変化を検証する

対象：フィールドワーク参加者

項目：ジェネリックスキルの改善・成長および意識変化について

実施1週間後に下記項目についての改善・成長が見られたかを自己評価する

また、評価の根拠となる行動事実、相関があると考えられるPG内容も記載する

ジェネリックスキル			1 変わらない 2 やや改善した 3 改善した 4 とても改善した L 評価の根拠となる行動事実／相関があると考えられる旅の内容
対人スキル	コミュニケーション	異文化間での効果的なコミュニケーション	○1 ○2 ○3 ○4
	協調性	チームワークと他者との協力	○1 ○2 ○3 ○4
	交渉力	利害関係者との交渉や調整	○1 ○2 ○3 ○4
自己管理スキル	時間管理	スケジュール管理、計画立案	○1 ○2 ○3 ○4
	リソース管理	予算や持ち物の管理	○1 ○2 ○3 ○4
	ストレス管理	旅行中のストレスやプレッシャーへの対処	○1 ○2 ○3 ○4
適応スキル	柔軟性	異なる文化や環境への適応	○1 ○2 ○3 ○4
	問題解決能力	予期せぬ問題やトラブルへの対応	○1 ○2 ○3 ○4
	創造力	新しい状況や課題に対する創造的な解決策の発見	○1 ○2 ○3 ○4
内省スキル	自己理解	自己成長を促す内省	○1 ○2 ○3 ○4
	批判的思考	自分の行動や決定の評価と改善	○1 ○2 ○3 ○4
	学習意欲	新しい知識やスキルを学ぶ意欲	○1 ○2 ○3 ○4

(4) フィールドワーク@千歳市 事前調査概要 (一覧)

北海道社会要素

- ・人口推移、年代分布、政治的な特徴・留意点

日本全体の農業と食

産業

- ・北海道・千歳の農業
- ・千歳市の企業誘致（ハイテク産業中心）
- ・千歳市の工業団地（ラビダス）
- ・観光と課題（ニセコオーバーツーリズム）

北海道の歴史

異文化共生

- ・アイヌ・インバウンド

北海道の物流

- ・新幹線開業に伴う鉄道路確保の課題認識

自然・環境

（５）アンケートの設計 フィールドワーク効果検証

目的：フィールドワーク実施後のジェネリックスキルおよび意識の変化を検証するため

対象：フィールドワーク参加者

項目：ジェネリックスキルの改善・成長および意識変化について

実施1週間後に下記項目についての改善・成長が見られたかを自己評価する

また、評価の根拠となる行動事実、相関があると考えられるPG内容も記載する

旅のプログラム内容と意識変化 [※]		1 そう思わない 2 ややそう思う 3 そう思う 4 とてもそう思う [※] ↳理由（フリー記入） [※]
地域 [※]	滞在した地域に関する知識理解が深まった [※]	○1 ○2 ○3 ○4 [※]
	滞在した地域への興味関心を持つようになった [※]	○1 ○2 ○3 ○4 [※]
	滞在した地域への定住意欲がわいた [※]	○1 ○2 ○3 ○4 [※]
自然 [※]	作物を収穫する喜びや充実感を味わった [※]	○1 ○2 ○3 ○4 [※]
	食べ物を大切にする気持ちが育った [※]	○1 ○2 ○3 ○4 [※]
	自然や生き物を大切にする気持ちが育った [※]	○1 ○2 ○3 ○4 [※]
	食べ物や作物への興味関心をもつようになった [※]	○1 ○2 ○3 ○4 [※]
	食べ物に関する知識理解が深まった [※]	○1 ○2 ○3 ○4 [※]
	自然や生き物に対する観察力が身に着いた [※]	○1 ○2 ○3 ○4 [※]
文化 [※]	滞在した地域の文化に関する知識理解が深まった [※]	○1 ○2 ○3 ○4 [※]
	滞在した地域の文化に興味関心を持つようになった [※]	○1 ○2 ○3 ○4 [※]
農業 [※]	農業に関する知識理解が深まった [※]	○1 ○2 ○3 ○4 [※]
	農業への興味関心を持つようになった [※]	○1 ○2 ○3 ○4 [※]
	自分の将来（職業）について真剣に考えるようになった [※]	○1 ○2 ○3 ○4 [※]
産業 [※]	（産業）に関する知識理解が深まった [※]	○1 ○2 ○3 ○4 [※]
	（産業）への興味関心を持つようになった [※]	○1 ○2 ○3 ○4 [※]

前回資料

発表内容

1. 課題認識と着眼点

- ・ 背景（VUCA時代における旅の重要性・実体験）
- ・ 現状
- ・ 課題の整理

2. 研究の方向性

- ・ 研究目的、研究対象、方法論
- ・ 今後の研究計画

1. 課題認識と着眼点

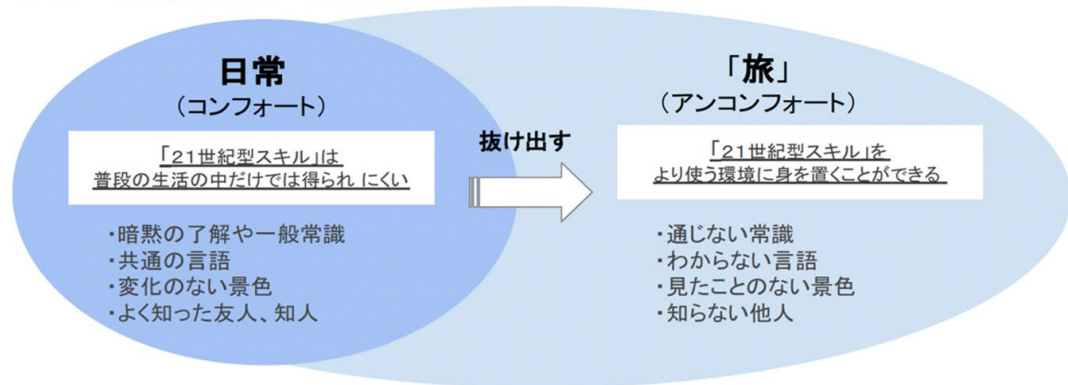
背景

- 昨年度のサービス・エンタメ班の取り組み「広島観光」の可能性
-原爆・戦争・平和を学ぶ旅をどう組み立てるのかでは、フィールドワークで広島を訪れた後の学生に目覚ましい成長が見られた
- 越境学習、ラーケーションといった日常と異なる環境下での能力の向上が注目されている
- 旅、海外留学を経験すると学生のジェネリックスキルが高まるとの研究もある

仮説：旅には人を成長させる何かがありそう

VUCA時代における旅の重要性

これからの時代を生き抜くスキルを身につけるには、
コンフォートゾーンを抜け出す経験の出来る場が必要不可欠であり、
「旅」することでこれからの生きる力が身に付くと考える。



研究で既に効果が出始めている
→この効果をさらに掘り下げたい

イノ旅

- ・ 高校生が旅を通じて地域課題に取り組む
- ・ 宮崎県新富町でのプログラムを皮切りに、日本各地で展開予定。
- ・ 旅と学びの関係性を研究し、「旅の回数が多い人はイノベーションを起こしやすい」という仮説
- ・ 学生から「成長できた」との声多数

課題解決力

思考力

予見力

対話力

- **Volatility (変動性)**
変化が速く、予測が難しい状況。
- **Uncertainty (不確実性)**
未来が不確かで、何が起こるか予測しにくい状態。
- **Complexity (複雑性)**
多数の要因が絡み合っており、全体像が複雑。
- **Ambiguity (曖昧性)**
情報が不明瞭で、複数の解釈が可能な状況。

図1 イノ旅の特徴と教育的効果

イノ旅の特徴

- ・ 五感を使って一次情報を収集する
- ・ 地域事業者、地域高校生との密な交流
- ・ 共通のミッションに向かって協働する経験
- ・ 日常 (コンフォートゾーン) を抜け出す経験

教育的効果

課題発見・解決力

創造的思考力

多様な価値観を受け入れる力

レジリエンス、やりぬく力

主体性、行動力

日常 (コンフォートゾーン)

- ・ 暗黙の了解や一般常識
- ・ 共通の言語
- ・ 変化のない景色
- ・ よく知った友人、知人

非日常 (アンコンフォートゾーン)

- ・ 通じない常識
- ・ わからない言語
- ・ 見たことのない景色
- ・ 知らない他人

※協議会の資料を基に編集部で構成。

VUCA時代における旅の重要性 実体験から

～広島市の平和に関する現地の方の想いや活動・外国人観光客との交流を通じて～

2023年度サービスエンタメ班 広島フィールドワーク



- ・ 平和についての関心が高まった
- ・ 世界での出来事への認識を高めないといけないと感じた
- ・ 現地にいくことで心に響いた
- ・ 日常を当たり前と思わず、目の前の時間を大切にするようになった
- ・ 思いやりや助け合いの精神が高まった
→能登ボランティアに参加
- ・ 社会的ネットワークでの存在意識を持つようになった
- ・ 多様な視点と新たな知見を得ることができた

若者にとっての旅の重要性

- 『かわいい子には旅をさせよ』ということわざがある

本当に子供がかわいいのなら甘やかさず、世の中にだし
辛く苦しい現実を体験させた方がいいということ（名鏡ことわざ使い方辞典）

- グランドツアー

様々な都市を訪問し、異文化や非日常を感じ教育の仕上げに教養及び
精神の向上に16世紀以降の欧州で行われていた

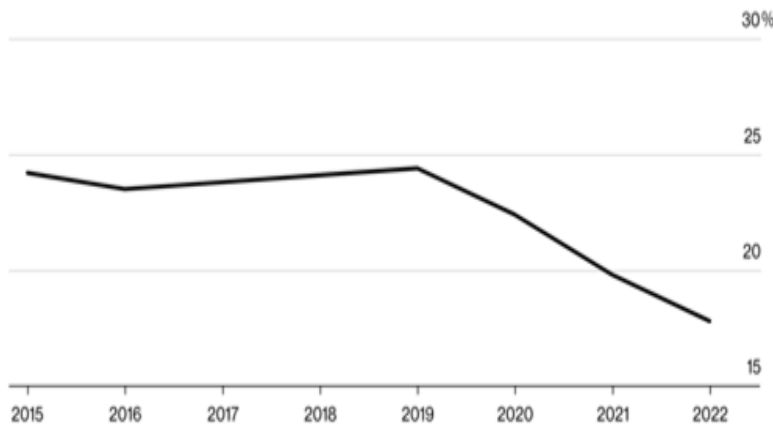


昔から若者が生活圏を出て旅することは、
成長や学びを得られるものであると考えられていた

現状

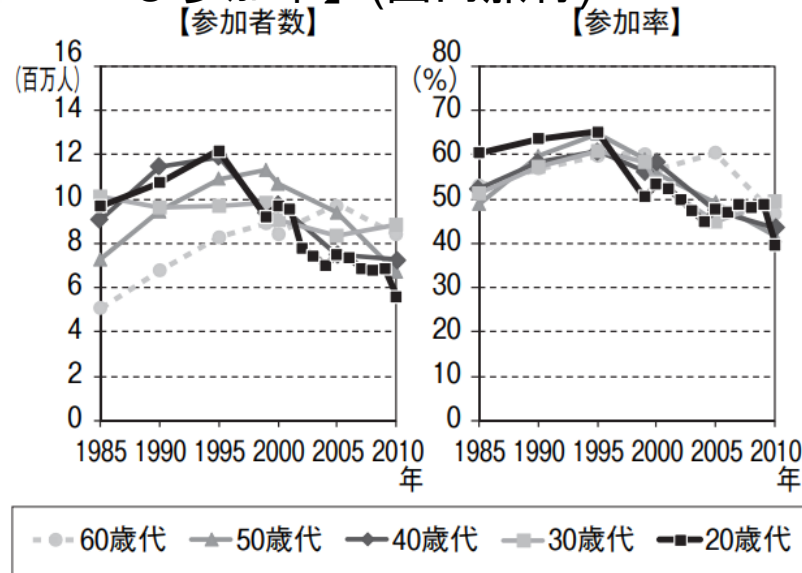
- 元々日本人のパスポート保有率は主要国に比べてきわめて低い
- 20代若者の国内・海外旅行離れの傾向が顕著

【日本人パスポート保有率】



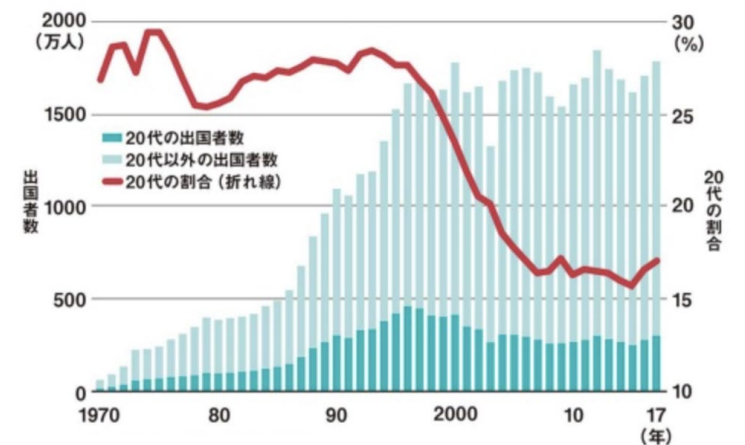
出所：日本旅行業協議会

【年齢階層別参加者数および参加率】(国内旅行)



出所：若者と旅ー若年層の国内観光行動の時系列分析ー（国際交通安全学会誌）

【日本人出国者数と20代の割合】

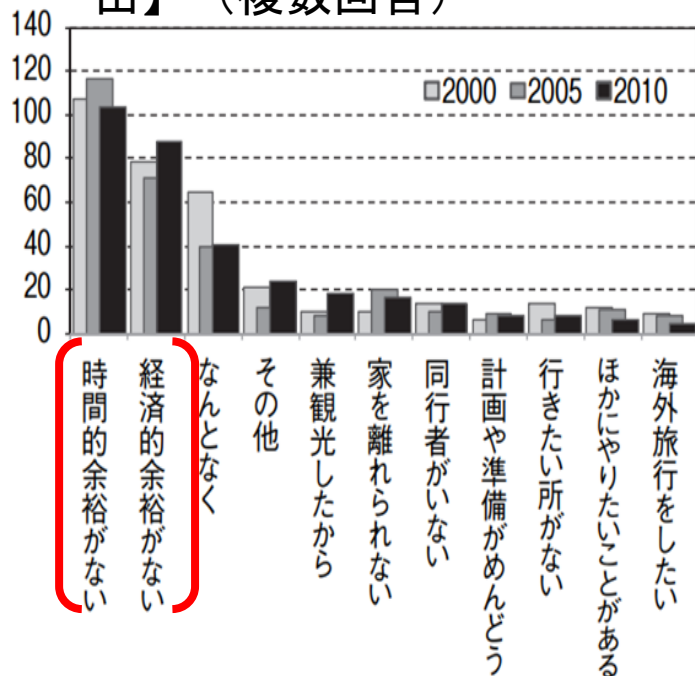


出所：法務省「出入国管理統計統計表」

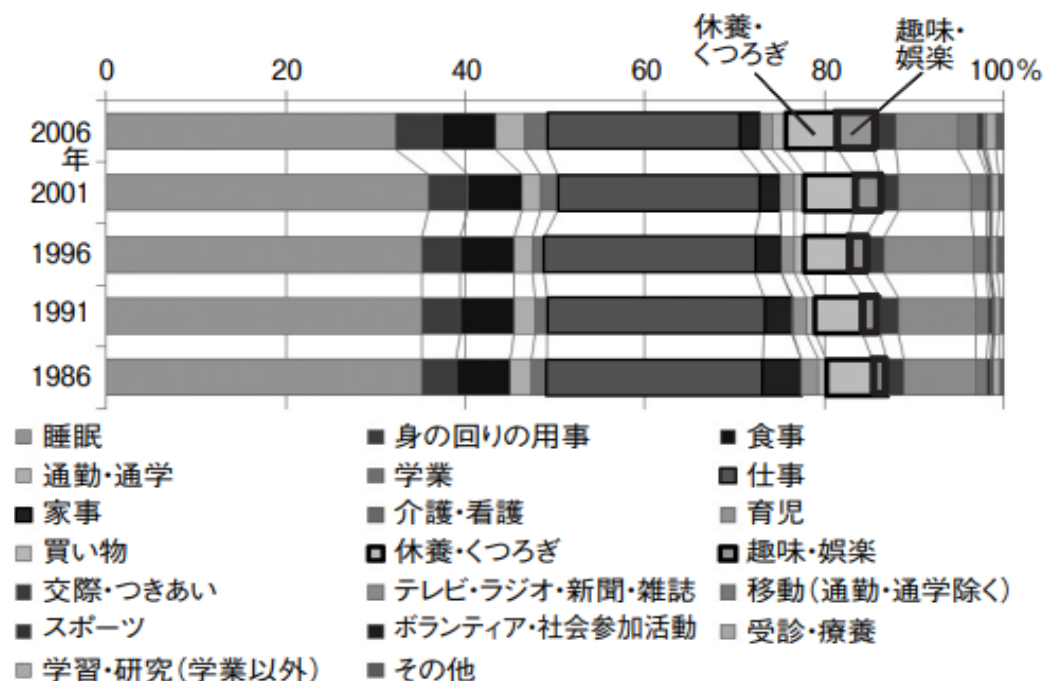
現状

- 時間的余裕がない、経済的余裕がないとの理由
- IT情報の閲覧の時間が上昇傾向も一因

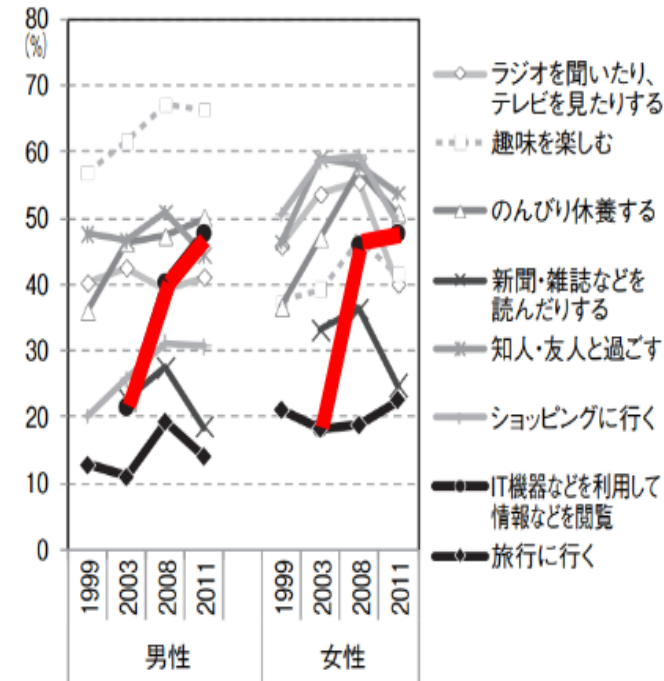
【若年層の旅行をしない理由】
(複数回答)



【若年層の時間の使い方】



【若年層の自由時間の過ごし方】
(複数回答)



課題の整理

課題認識：

VUCA時代において若者が旅に出る意義は高まっていると考えるが、実状は優先順位が下がり旅に出なくなっている

旅の優先順位が下がっている要因仮説：

- ・ 若者の余暇の「時間配分」がSNSに偏ってしまっている
- ・ ネット上で情報を得たり、人とのつながりを持つことができるため、リアルな体験をしなくても知った気になり、心地よいフィルターバブルの中にとどまってしまう
- ・ タイパ世代は確実性（目に見える結果）を求める傾向が強い。旅を通してどのような能力が得られるのかが明確でないため、旅の優先度が下がっている

旅の重要性を明らかにすることで、同世代の若者達が旅に出るきっかけを作りたい

2. 研究の方向性

研究目的・対象・方法論

研究目的：

旅の重要性を明らかにすることで、若者が旅に出るきっかけ作りにつなげる

方向性① リアルに体験する実際の旅とオンライン旅で得られる学びにどのような違いがあるかを明らかにする

方向性② 旅のどのような経験がジェネリックスキルを高めるかを明らかにする

研究対象：若者（20歳前後の大学生を想定）

研究方法：文献調査、フィールドワーク、アンケート・ヒアリング調査

理論と実際の経験を踏まえ、最終的に「Z世代によるZ世代に向けた旅のすすめ」として提案をまとめる

(表1) スマートフォンで利用する主な SNS や動画投稿サービス(性年代別) (複数回答)

	LINE			YouTube			X(旧Twitter)			Facebook			Instagram			Tik Tok		
	2023	2019	2018	2023	2019	2018	2023	2019	2018	2023	2019	2018	2023	2019	2018	2023	2019	2018
全体(1030)	89.5	89.6	83.7	71.1	64.2	60.7	50.3	41.6	40.1	↓ 25.2	37.3	38.3	↑ 50.6	38.7	33.6	↑ 17.7	4.1	3.0
男性 29歳以下(103)	85.4	93.9	93.2	80.6	87.8	81.6	↑ 80.6	70.4	72.8	↓ 17.5	40.8	48.5	↑ 63.1	52.0	49.5	↑ 33.0	6.1	15.5
男性 30代(103)	91.3	88.8	75.7	↑ 89.3	77.6	66.0	↑ 68.9	56.1	47.6	↓ 37.9	50.0	50.5	↑ 50.5	36.7	26.2	↑ 23.3	10.2	4.9
男性 40代(103)	85.4	85.7	77.7	72.8	68.4	64.1	↑ 50.5	38.8	40.8	↓ 26.2	40.8	42.7	35.9	29.6	21.4	10.7	6.1	0.0
男性 50代(103)	83.5	83.7	68.9	65.0	59.2	56.3	43.7	34.7	30.1	↓ 26.2	41.8	32.0	26.2	26.5	28.2	11.7	3.1	0.0
男性 60代(103)	85.4	76.5	72.8	52.4	49.0	52.4	26.2	17.3	30.1	30.1	32.7	35.9	↑ 23.3	12.2	23.3	↑ 12.6	1.0	0.0
女性 29歳以下(103)	95.1	99.0	97.1	↑ 89.3	78.6	75.7	77.7	77.6	75.7	↓ 10.7	46.9	55.3	↑ 88.3	77.6	79.6	↑ 36.9	7.1	6.8
女性 30代(103)	92.2	95.9	92.2	71.8	66.3	65.0	↑ 59.2	38.8	37.9	↓ 29.1	46.9	44.7	↑ 75.7	61.2	50.5	13.6	4.1	1.9
女性 40代(103)	93.2	94.9	88.3	↑ 71.8	57.1	55.3	35.0	32.7	29.1	30.1	24.5	32.0	↑ 60.2	40.8	21.4	↑ 16.5	1.0	1.0
女性 50代(103)	90.3	91.8	89.3	↑ 63.1	50.0	55.3	40.8	36.7	29.1	22.3	31.6	30.1	↑ 51.5	34.7	25.2	↑ 13.6	2.0	0.0
女性 60代(103)	93.2	85.7	81.6	54.4	48.0	35.0	20.4	13.3	7.8	22.3	17.3	11.7	↑ 31.1	15.3	10.7	4.9	0.0	0.0

＊赤矢印:2019 年より 10 ポイント以上上昇したもの 青矢印:2019 年より 10 ポイント以上減少したもの

白水さん、具体的な研究・分析の方法としてインターゼミで皆さんの意見聞いてみましょう。

雑案

BeReal.というアプリが大流行

→その場の「リアル」の需要が拡大していることの裏返し???

BeReal.とは：

リアルな日常の一コマを、写真一枚だけ友達とシェアできるSNS。

昼夜問わずランダムに一日一回、通知が来た瞬間2分以内に投稿するのがルール

そのため、「今」「どこで」「なにを」が即時共有されるため「生々しさ」が重要視されている

1. インスタグラムの「ストーリー」機能を利用し、若者はその場の出来事を共有するのが常識化している
 - a. アンケート形式での調査は、若者にとって煩わしさを感じさせてしまう。
→であれば、日常的に利用しているサービスに「リアル」が投稿されているのであれば、こちらを活用して解析が有用ではないか
1. インスタグラムだけではなく、左記の「BeReal.」「X（旧ツイッター）」「LINE」等のメッセージツールで友人・親族等にその場で共有している内容も解析
 - b. 個人の感想をその場で発信しているのを「直感的に」感じているリアルを無意識に発信・残している
 - c. これはかなり有用ではないのか??!
 - d. ※勿論調査の際は個人情報に当たるので強制はしない

6月15日計画発表を終えて

- ・ 時間を守ること、発表の時間が1分半→2分
- ・ 全体の反応から、興味は持っている感じをえた
- ・ データ取得時の聞き方配慮が必要だと思った。
- ・ 研究がZ世代を対象にしているので、Z世代を突き詰めた調査が必要。時代、各国のZ世代の違い
- ・ 戦後日本に生きる人間たちのZ世代、それより上の人たちと価値観がどのように違うのか、旅に対するイメージが違うのか。現代の旅は以前と違っているのではないか
- ・ 旅はコンフォートからアンコンフォートに行き、帰ってくるものとの認識？移動そのものにも効能があるのか
- ・ Z世代に対する調査が必要
- ・ Z世代が旅に出たくなるワクワク感を今後研究必要があると感じた
- ・ 方向性に関する議論が必要
 - 国、時代をどのように見るか。アジア地域から見た日本Z世代なのか
 - この研究を通じてどのようなインパクトを与えたいのかを議論する必要がある
 - まったく異なる環境での学びなのか
- ・ 何を研究をしようとしているのか
- ・ 今後の方向性について議論すべき、自分たちがどういう目的にどういう方向性を示したいのか。内容について詰めて行かなければならない（目的、研究方法）
- ・ アライ先生、真壁先生 旅の意義が明確になっていないと旅に出ないのではないかと
→アンケート調査によって明らかになる
- ・ Z世代を対象にするのであれば
→Z世代への理解が足りていなかった
- 世代間の認識の違い
- ・ 学長のジャングリラの言及については、具体的なプロジェクトに参画して活動する。アジアとの連携も視野に入れるべき

旅に出たくなるワクワク感とは？（TABBIPO）	喜屋武さん
昨年度「広島観光」研究での学生の学び（2023年度サービスエンタメ班論文）	中村さん
昨年度「広島観光」フィールドワークで得た外国人のなぜ来るのか？実際インタビューして何を感じたのか？（昨年の論文をみてまとめる）	井上さん
アジアのZ世代（中国？台湾？いずれか）文献調査	コエルさん
ジェネリックスキルとは	白水さん
6/15のフィードバックを受けての今後の研究の方向性の案	小田島さん
Z世代の価値観とはまとめ（2022年サービスエンタメ班論文）	新村さん

論文を意識し、Wordで作成